

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 滝村 一彦

学校住所 (岡本キャンパス) 高山市下岡本町 2000-30 電話 0577-32-5320

(山田キャンパス) 高山市山田町 711 電話 0577-33-1060

1 会議の名称 平成28年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第1回)**2 会議の構成**
委員 松川 英明 高山グリーンホテル常務取締役
石井 充子 児童養護施設 夕陽ヶ丘施設長
伊藤 順子 (有)ドラッグいとう 専務取締役
小林 光士 飛騨ミート農業協同組合連合会 代表理事常務
横畑 守 岐阜県指導農業士

(委員名は五十音順)

学校側	滝村 一彦	校長
	田中 治	副校長 (全日制山田キャンパス)
	今井 一三	副校長 (定時制・通信制)
	高田 功	事務部長
	池田 哲也	教頭 (全日制岡本キャンパス)
	清水 明彦	教頭 (全日制岡本キャンパス)
	村井 真	教頭 (全日制山田キャンパス)
	金子 佳弘	教頭 (定時制)
	村田 和宏	教頭 (通信制)
	近藤 和彦	教諭 (全日制岡本キャンパス・教務主任、記録)

3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。**4 会議の開催** 平成28年6月14日(火) 13:30~15:20
飛騨高山高校 岡本キャンパス会議室
学校評議員5名と学校側10名が出席**5 会議の概要** (進行 清水教頭)
開会の挨拶 (田中副校長)
学校評議員の委嘱
自己紹介
授業参観 (全日制・岡本キャンパスの第5限の授業)
学校説明 (滝村校長)
全日制 岡本キャンパス (池田教頭)、山田キャンパス (村井教頭)
定時制 (金子教頭) 通信制 (村田教頭)
授業参観の感想及び学校への意見・要望等
閉会挨拶 (今井副校長)

(1) 授業参観（全日制 岡本キャンパスの第5限の授業と施設・設備を見学）

(2) 学校長挨拶・学校説明

本校は「快活」「友愛」「創造」の校訓の下、心身とも健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指している。就任以来「文武不岐」を合言葉に、学習と特別活動のどちらにも努力し、強い思いと高い志をもち、自分の言葉で未来を語る生徒を育てることを目標としている。

教育の重点では、本校の強みでもある多くの学科、教科の枠を超えた多様な授業を展開し、在籍学科以外の学習にも生徒の興味・意欲を高めるようにしている。全日制課程のほか定時制、通信制課程もある。

生徒目線の授業改善。本時の目標を明確にするため、すべてのクラスで「本時の課題」プレートを利用して生徒に知らせている。

生徒の動向をつかむため、出欠席の確認を徹底し、学年主任、教頭等がしっかり把握し、個々の生徒の事情や健康状態などを学校全体で気にかけるようにしている。

生活産業科と農業科が本年度より2年間の飛び出せ専門学校生事業の研究指定を受けた。2月1日には中間発表を計画している。このようなチャンスを生かして生徒のコミュニケーション能力や自主的に活動する力を涵養し、地域で活躍できる人材の育成に努めたい。

(3) 今年度の学校状況の説明

<全日制 岡本キャンパス>

- ・学習面では、いろいろな科目が選択できる本校の強みを生かした授業展開をしている。
- ・生徒が自主的・主体的に学習する態度を養うため、アクティブラーニングへの取り組みを深め、ペア学習、協働的な学習など講義型の授業からの転換を図っており、その授業評価については本年度の本校教員研修のテーマとして掲げ、先日も県教育委員会より講師を派遣してもらい研修を行ったところである。
- ・特別活動では、陸上、ハンドボールが東海大会へ出場、卓球部が中部大会へ出場するなどそれぞれの部活動が頑張っている。
- ・卒業生の進路では、おおよそ就職30%、専門30%、四年制大学40%という状況。学年ごとに目標を設定し、最終的なゴールを目指す進路指導を行っている。卒業生が現役生徒に進路アドバイスをを行うF-NAV Iや飛騨高山ふるさと企業・OB&生徒交流会でキャリア教育を行っている。

<全日制 山田キャンパス>

- ・学習面では地区唯一の農業の専門高校として、3つの学科で専門性を高め実践力を高めることに力を注いでいる。特に課題研究でアクティブラーニングを実践。計画から実施、まとめまで生徒が主体となって行っており、課題研究発表会やプロジェクト発表では、身につけた力を発揮している。
- ・進路指導の目標は、次の3つである。専門的な知識・技術を生かした農業従事者の育成。専門性をより深める大学や専門学校への進学。専門に関連する地域の会社に就職である。1年次から段階的に目的意識をもって取り組ませている。

<定時制>

- ・学習面では基礎基本となる学習の確実な定着を図っている。不登校を6割の生徒が経験し、小学校や中学校で不足している学習の学び直しが必要である。英数国はチームティーチングで教員が2名つき、きめ細やかな指導している。3修制で通信制を利用して3年間で卒業を目指す生徒もいる。
- ・生活面では人間関係が苦手な生徒が多い。定時制での生活で高校生活にだんだん慣れてきている。今年度の定時制のテーマは「思いやりを育む」である。労働基準監督署長さんの話、携帯使用モラルの話、助産師さんの話など毎月講演会を計画し、人の気持ちのわかる生徒を育てたいと考えている。
- ・生徒の就労については、仕事の状況や悩みなどを聞くなどの支援をするとともにアルバイト先の職場訪問を担当中心に行っている。
- ・定時制は帰宅が遅く青少年保護条例にかかる時間帯になるため、普段から警察との連携を図り、安全に努めている。

<通信制>

- ・生徒数はここ10年間、ほぼ100名前後で推移している。本年度は92名が在籍、内5名が休学しており、87名が活動生である。通学地域は高山市64名、飛騨市・下呂市がともに10名、郡上や加子母、瑞浪市釜戸からの通学者もいる。入学生は36名だが、新卒者が21名で、新卒が増えている傾向である。年齢層は15～20歳である。卒業生15名のうち、進学7名、就職4名、浪人1名、家事手伝い2名、アルバイト1名である。卒業生の最高齢は65歳であった。
- ・教科指導は、月2回スクーリングが中心だが、自学自習が困難な基礎的な学力不足の生徒も多い。そのため、ていねいな学習指導が必要で、「気長」「丁寧」「親切」をスローガンに掲げ、プレスクーリングを実施したり、月曜日から金曜日までいつでも来校し学習できる態勢にしたりしている。本日も夜間学習会を実施する。
- ・生徒指導面では、人間関係がうまく作れない生徒が多く、自分に自信がもてず、自己有用感や肯定感をもてない。同じ悩みをもつクラスメートと、球技大会や宿泊研修、生徒体験発表などの学校行事を経て自信をつけていけるよう努めている。
- ・進路指導では、先日行った進路希望調査の結果によると、本年度卒業予定の27名のうち、進学7、就職10、家事手伝い1名、未定9名となっているが、未定の多くは自信のなさから決断をためらう生徒である。社会性を身につけさせたいと考え、ソーシャルスキルトレーニングを研究しており、先日も先進的な取り組みをしている富山県立雄峰高校を訪問して研修を深め、次年度から新しい教科として実施する予定である。

(4) 授業参観の感想および学校へのご要望・ご意見等

- 意見1 玄関に入ってきたとき、生徒が笑顔で迎えてくれ思わず話しかけた。参観では少人数で様々な授業に驚いた。午後からの授業なのに生徒が一生懸命取り組んでおり感心した。生徒のエネルギーを感じた。新しい試み(商品開発など)は素晴らしい。定時制には施設の生徒がお世話になっており、地域の中で受け入れていただける学校があることに感謝している。
- 意見2 英語の授業でオールイングリッシュにはびっくりした。先生の英語力も高い。私どもの仕事において英語は必須となっており、特にヒアリングは大切。POPの制作や手芸の授業では、独創性がないといけなと感じた。
マニフェストの中に人間性を高めるとあるが、外部の人間にもわかるよう授業で見せてほしい。
- 意見3 学校とは無縁だったが、本日の授業を見て、授業の在り方が全く昔と違っていて、大学

- の講義のようだった。少人数での授業、一斉授業など形態が混在していてびっくりした。
- 意見4 数十年ぶりの学校。我々の仕事もグローバル化している。外国からの視察、カタログの説明にも英語が使われている。生徒の成長が楽しみである。かつては、高卒者を即戦力とは考えていなかったが、実用的な学習ですぐに働けるのではないかと感じた。定時制通信制も大変だが、敬意を表したい。
- 意見5 初めての授業参観だったが、きめ細やかで専門的な授業だった。山田キャンパスも少人数で行っているのか。
- 学校側 山田キャンパスでも英数は少人数で分割して行っており、課題研究などの専門科目ではさらに少ない人数で専門的な学習を行っている。
- 意見6 進路についての窓口は定時制・通信制も一緒なのか。
- 学校側 異なる。基本的に通信制を指定して求人票は来ないので、ハローワークなどと連携して対応している。今年は卒業予定者が多いが、人間関係に不安をもっている生徒も多く、結果的にアルバイトを継続する者も多い。
- 定時制も同様だが、全日制の求人票で充足してない場合は、情報を提供してもらい応募することもある。
- 意見7 求人については、企業側の理解も必要で、我々も全日制とは別に考えなくてはならない。
- 学校側 そうしていただくと大変ありがたい。
- 意見8 農業科のスーパーインターンシップについては宿泊を伴うが、これはどういう経緯で決まったのか。受け入れをしているが、意欲のない生徒だと、家族と共用のため負担が大きい。
- 学校側 インターンシップは通いだが、スーパーインターンシップでは宿泊で行っている。企業では定時に帰るが、農業従事者は一日中仕事である。通いでは分からないことをきちんと体験させたい。事前指導を十分行い参加させたいと考えており、負担は重々承知だが、継続させていただきたい。

6 会議のまとめ及び閉会

本日は、貴重な御意見をいただきました。学校で十分検討したいと考えております。評議員の皆様には7月に評価アンケートをお願いすることになっています。ご協力お願いいたします。

第2回は、1月27日（金）の学習成果発表会の日に開催する予定です。